



これからはじまるのは、ひとりひとりちがっていいんだよ!

——LGBTってなに?——

という、紙しばいです。

紙しばいのはじまり、はじまりい! さあ、どんなお話かな?

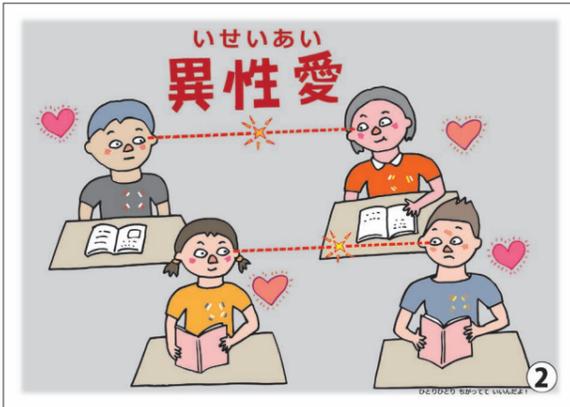
■ひとりひとりちがっていいんだよ

この紙しばいを見る子どもたちには、人間は一人ひとり違っているのが当たり前なんだ、という感覚になってもらって、いじめなどをしないでほしいという気持ちを込めて「ひとりひとりちがっていいんだよ」というタイトルをつけました。

この紙しばいを使って、実際に教える立場にある先生方にも、いま一度ご自身の意識を確認していただき、性別違和を感じ始める子どもたちが苦しまないように、理解を深めていただきたいと思います。

2017年3月、日本政府はいじめ防止基本方針の改訂を行い、LGBT生徒の保護の項目が、初めて盛り込まれました。これに先立ち、2016年には教職員向けに、LGBT生徒への対応を記した手引きも発行しています。しかし、実際は、いまだにLGBTに対する差別やいじめがあるのが現状です。

性的指向/性自認は、生まれつきの個性であり、思春期になってそうしたことで悩まないよう、また、まわりの者たちがそれを認める社会になるのを期待して、この教材を制作しました。



みんなの年ごろを思春期といつて、体も、心も、ぐーんと成長する時期です。

女の子は 男の子を好きになったり、男の子は 女の子を好きになったり、眼があっただけでドキドキしたりするようになる——これを異性愛といえます。

■異性を好きになる初恋の時期

みんなは、思春期にさしかかって、気になる異性(女の子にとって男の子、男の子にとっては女の子)がいるかもしれないね。あるいは、まだの子もいて「これからが楽しみ」という年ごろかもね。

日本の人口は現在1億2千万人ですから、12人に1人は性的少数者LGBTということになりますね。

でも、この人たちの65%は、親にも友人にも職場の同僚にもカミングアウトしておらず、ひとりで悩んでいるのが現状です。

特に思春期にさしかかる小学校5～6年生の児童には、同じクラスにも、自分の性的指向/性自認で悩んでいる子がいることを理解し、いじめの対象にしないよう話すことが重要です。

これを、異なった性の子を愛する異性愛といって、世界中、異性愛の人が多くいて、性的多数派(セクシュアルマジョリティ)といえます。

これに対し、LGBTの人びとは、11～13人に1人います。日本には1,000万人の性的少数者(セクシュアルマイノリティ)がいるといわれています。



でも、みんながみんな、そうじゃない! では、どんな愛があるんだろう? じゃあ、いろんな愛があることを説明するね!

■性はグラデーション

愛には、いろんな愛があり、性にはいろいろな性があります。この紙しばいは、「いろんな愛」について語ります。

こころの性(性自認): 自分自身を、からだの性とは関係なく、男性だと思う人、女性だと思う人、中性だと思う人、性別は決めたくないという人、など、様々な人がいるんですよ。

性について考えるとき、単純に「男性/女性」と考えるだけでなく、「からだの性/こころの性」と考えられるようになると、一歩進歩したことになりますよ。

好きになる性(性的指向): どんな性の人を好きになるか、ということ。異性を好きになる人、同性を好きになる人、どちらの性も好きになる人、性別で好きになる人を決めたくないという人、誰も好きにならないという人、など、性的指向は、いろいろです。

からだの性: 性器、性腺、染色体などの身体的特徴で、男性/女性に分けられる性のことです。



まず、同性愛<sup>どうせいあい</sup>といって、女性が女性を好きになる人を、レズビアン。男性が男性を好きになる人を、ゲイといえます。

■同性愛=ゲイ・レズビアン

男性同士好きになる人も、女性同士好きになる人もいます。これを同性愛といって、男性同士の場合はゲイ、女性同士の場合はレズビアンといえます。

こともできます。男性同士の場合は、児童養護施設などからあかちゃんをもらってきて、養子にしてください。

「ホモ」「おかま」「レズ」という言葉は、差別用語です。そんなふうには呼ばれる当事者は、たいへん不愉快な思いをして、自死を考える子もいるので、気をつけましょう。

私はアメリカのニューヨークで、ゲイとレズビアンの子連れハロウィンパーティーに呼ばれたことがあります。みんな子どもにすてきな服を着せて、メイクもして、とてもかわいがってました。どんな愛でも、幸せな家庭をつくることのできる社会こそ、人権尊重の社会といえるでしょう。

大人になると、同性同士愛しあって、家庭をつくれます。女性同士の場合は、専門病院で保管してある精子をもらって、自分の卵子と合体させて(人工受精)あかちゃんを産む

日本では現在、同性婚を合法化する訴訟が、全国の地方裁判所で行われています(p5の⑤解説参照)。



「ほかの子とちがってらる」ことに気づいて、ひとりで悩んでいるかもしれません。

みんなのクラスにも2人か3人、いるかもしれない。そして……

13人に1人くらいいると、いわれています。

LGBTの子は、ひとりで悩んで……

■個性として認め差別しないようにしましょう！

現在、LGBTが性的少数者の代名詞になっており、13人に1人、または11人に1人は性的マイノリティ（少数者）といわれています。

なので、40人のみんなのクラスには、1人や2人のLGBTの子がいると考えていいでしょう。でも、LGBTの子は、まわりの友人たちとは違うと、ひとりで悩んで、親しい友人にも打ちあけることができないでいます。特に、思春期以降のLGBTの児童・生徒の自死願望は、セクシュアルマジョリティの6倍といわれています。

■文部科学省（教職員向け）「トランスジェンダーに係る児童・生徒に対するきめ細かな対応の実施等について（平成27年4月30日通達）の一部

- ① 服装、トイレ、宿泊研修に関し個別対応。
- ② 服装、髪型、学用品、更衣室、トイレ、水泳、運動部での活動、宿泊研修（修学旅行を含む）場合、他の児童生徒への説明、保護者、PTAへの説明。



友だちにも言えず……ひとりで悩んで……

「なんで、みんなとちがうんだろう？」

「どうしたらいいんだろう？」

いいえ、ひとりで悩みを抱えこまないで、信頼できる人に相談しましょう！

■LGBTの児童・生徒の悩み

小学校5～6年生から中学生にかけて、二次性徴の体の変化が顕著になるころ、トランスジェンダーの子は、性別違和感に悩みます。例えば、乳房がふくらんできたり、初経をみたとき、声がわりしたり射精したときのショックは大きく、不登校や自死願望につながっているといえます。

こんな場合は、ホルモン療法でそうした発達をおさえることができるので、専門医に相談することをおすすめします。

■性別違和感を自覚した時期

	全体(1,167人)	MtF(431人)	FtM(736人)
小学校以前	660(56.6%)	145(33.6%)	515(70.0%)
小学校低学年	158(13.5%)	67(15.5%)	91(12.4%)
小学校高学年	115(9.9%)	56(13.0%)	59(8.0%)
中学生	113(9.7%)	74(17.2%)	39(5.3%)
高校生以降	92(7.9%)	77(17.9%)	15(2.0%)
不明	29(2.5%)	12(2.8%)	17(2.3%)

岡山大学 保健学研究所 中塚幹也教授 調査



まず、保健室の先生や、スクールカウンセラーに相談しよう。その他にも、24時間電話相談や、インターネットでも、悩みをきいてもらえますよ。

■信頼できる先生に相談しよう

担任の先生や保健室の養護教諭は、身近で信頼できる大人です。トランスジェンダーの子どもの相談に応じられるよう、研修会などで学び、子どものよき相談相手になってほしいと思います。

ところが、LGBT法連合会が調査した性的指向/性自認を理由とする教育の困難事項は、下記の通りとなっています。

- ①「オカマっぽくて気色悪い」と言われたと児童が訴えると、先生はクラスみんなに向かって「本人は直そうと頑張って頑張っているんだから応援しよう」という理解のなさ。

- ②「校則だから」と、むりやり坊主刈りにされた。
- ③ 他の人に身体を見られるのがイヤで、更衣室、トイレが使えない。
- ④ 合唱コンクールで、女性音域が出る僕に、先生から「低音を練習しなさい」と言われた。
- ⑤ スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーに知識がなく、指導法の具体的な相談ができなかった。
- ⑥ 性的指向/性自認について学齢期に伝えるためのカリキュラム、教材、指導案がないため、教員が児童・生徒・学生に対して、適切な指導ができない。



あっ、虹が出ているよ！

わーい、虹の色のように、この世界には、いろんな人がいるんだ！

そう、ひとりひとりちがっていいんだよ！

さあ、みんな、手をつないで元気に生きていこう！

(おわり)

■明るくナレーションを

「あっ、虹が出てる！」と明るく読みましょう。七色の虹のように、人間の性はさまざまなグラデーションに満ちているのです。みんなが理解して、いじめやからかいのない、自由で平等なクラスであるようにと願っています。

権利を尊重する意思のある人々のことを指します。さまざまなセクシュアリティに理解を示し、尊重する気持ちが大切。性的マイノリティに対する理解があれば、誰でもアライになることができます。

■Ally（アライ）であることを表明しよう

Ally（アライ）とは、同盟や連携を意味するAlliance（アライアンス）からできた言葉で、盟友・味方という意味を持ち、自分自身がLGBTであるかどうかに関係なく、LGBTの

アライであることを表現するには、LGBTの象徴であるレインボーカラーのバッジやシールを服のどこかにつけることで表明でき、性的少数者への差別をしないことの表現となります。